

H29 東京大学見学会・企業大学訪問

① ディレクトフォース

この企画は、私が最も楽しみにしていた企画だった。なぜなら、頭がよく経験豊かな人は話が上手で、話す内容のレベルも高く、話していて楽しいからだ。だから話が尽きて時間が無駄にならないように、たくさんの質問を用意していた。実際に笹川平和財団の方は私の期待以上の、とても面白い話をしてくださった。私が特に楽しいと思ったのはグループセッションだ。

グループセッションの1回目は村上悠平様だった。村上様は外務省で EPA などの交渉を進めたり ODA の業務などをされていて、現在は笹川平和財団で海洋生物多様性の利用・研究をしている方だ。村上様に外国の人と話すうえで大切なことは何だと考えていますかと伺うと、英語力よりも話の話題を身に着け、言いたいことを作る事が大切だとおっしゃった。確かに、同じ言葉話すからという理由で相手はわざわざ耳を傾けてはくれない。それに、すべての海外の国々は英語を話すわけではないので、相手にとっても英語は異国語であることもある。相手に話を聞いてもらうためには話す内容が濃いことが大切で、そのためには専門性を作ることが必要だそうだ。先進国も発展途上国も嬉しいことは嬉しいと感じ、傷つくことは傷つくという点で同じなので、共通点を探し、異文化による違いも意識しないことが大切だそうだ。また、村上様は平和のために尽力されているという話を以前聞いたことがあったので、平等を実現することは可能だとお考えですかと伺ってみた。平等というのは他との比較であり、克服できないことによる差別は個人の尊厳を傷つけるのでダメだと思うが、機会の平等や結果の平等は保証されなくてもいいだろうとの考えだった。私は今まで、なんとなく平等というものは大切なのかなと思っていたが、私の考えははるかに浅かった。平等というものはもっと奥の深いものだった。私はこの世の中は平等でなければならないと思っていたが、そもそも大切ではないのかもしれないと感じた。

2回目は矢ヶ崎隆二郎様だった。矢ヶ崎様は海外で20年ほど生活したり金融系の仕事に就いたりしていた方だった。海外に居てよかったと思うことは、海外にもともに笑い合えるような友人がいることだそうだ。異なる国の人とは文化も違うのでコミュニケーションが大切らしい。また、お金とはためるのが目的ではなく使うことが目的であり、銀行とはお金が余っている人が必要な人に貸すことが目的であるということも熱く語ってくださった。思い起こせば、私もお金を貯めて特にしたいこともなく貯金にいそんでいた気がする。また、お金が余ってなくても預金することもあった。お金はただあるだけでは全く価値がなく、財やサービスと交換できるからこそ価値があるのだという

ことを気づかされた。矢ヶ崎様には海外のこと、お金のことなどをとてもたくさん話していただいたが、ここには書ききれない。

3回目は青木匠様だった。青木様は、自分の世界の狭さを意識するようにとおっしゃった。私は日本という小さな島国に居て、その中の仙台という場所に居て、そこで学校と家の間を行き来しているだけだ。しかし社会に出ると、くじけることも多いが目的のために生きることになるので、自分を見失わないことがとても大切だそうだ。私は、自分がどれだけ狭いところに生きているか、将来はどれほど広いところに生きることになるかを少しだけ分かった気がする。また、若いうちは全てを経験して、一生懸命になって夢中になってこれ以上はできないというほど努力して、失敗してそこから学ぶように、という言葉もいただいた。自分を成長させるためにも、あまり気乗りしないこともやってみようかなと思った。

② 企業訪問

私は三菱商事に訪問した。三菱商事は見ているだけで圧倒されるほど立派な建物で、私たちは入り口で警備員につかまってしまうほどだった。今回の訪問で三菱商事の方は海外の国々を相手にしていて、それが想像以上に難しいことを知った。国によって、文化も政府も違うので新しい国に進出して事業を始めるときも決まったやり方はない。え、いろいろ求められるような国もあるので非常に大変だそうだ。ただ、仕事をやりにくい国こそビジネスチャンスがあることが多いそうだ。また、言葉の違う国の人との信頼関係を築くことは難しいが、ちいさな約束もしっかり守り、相手に価値を提供することを意識して、少しずつ積み上げていくそうだ。このことは日本での人間関係とも共通点があるように感じる。また、三菱商事は会社に多くの人を社長として派遣するなど、経営に関することも多くしている。経営では自分の頭をどれだけ使い、他人の頭をどれだけ使わせ、儲かるところに行って儲けることが大切らしい。ただ、他の人の頭を使わせることも儲かるところを探すこともとても難しいだろう。そのことをサラッとやっている三菱商事の方はとても努力家で、とてもかっこいいと思った。この訪問の前は商社の仕事を理解しているつもりでいたがとても複雑な仕組みをしていて何もわかっていなかったことを実感した。そして、商社にさらに興味が出てきた。これは私にとって非常に良い経験となった。

③ 二高卒の東大生との座談会や東大見学会では、東大を少し身近に感じられるようになった。東大の方はがり勉なのだろうというイメージがあったが、東大生と話した時それはすぐに崩れ去った。東大生は話が上手で面白く、何でも器用にこなせる人たちであり、また、自分の学習習慣をきちんと確立していて、自分なりの勉強法を知っている方たちなのだと感じた。東大を志望校にした理由は、多くの東大生が進振り制度のことや研究室のことについてだった。東大はやはりほかのどの大学よりも環境が整っているのだと

思い、東大で学びたいと思った。ただ、私の前にはとてつもなく大きな壁が立ちはだかっている。それは学力だ。これには正直才能も含まれている気がする。しかし、才能の無い私の場合には努力が必要不可欠である。そこまで私は努力できるのだろうか、価値はあるのだろうかという不安と疑問も生まれてくるが、東大で学べたらなんて素敵なんだろうと思う。二高 OBOG との座談会では、このような素晴らしい方の母校で私は今学んでいるのだという驚きと同時に、感激もした。

また、模擬講義では犯罪についての講義を受けた。やはり、東大の先生は授業がわかりやすく、面白かった。座談会と見学会で、東大生から勉強することの楽しさを教わった気がする。そして明日からまじめに勉強したいと思えるような東大の方の話だった。